

(財) 地震予知総合研究振興会
長岡平野西縁断層帯の活動性評価に関する研究委員会 (第3回)

概要報告

1. 日 時 平成23年3月9日 (水) 14:00~17:30

2. 出席者

主査	東北大学	名誉教授	長谷川 昭
委員	長岡技術科学大学	教授	大塚 悟
	東北大学	准教授	岡田 知己
	防災科学技術研究所		岡田 義光
	東京大学地震研究所	教授	小原 一成
	東京大学地震研究所	名誉教授	金沢 敏彦
	日本大学総合科学研究所	教授	工藤 一嘉
	東京大学地震研究所	教授	瀬藤 一起
	東京大学地震研究所	准教授	酒井 慎一
	名古屋大学	教授	鷺谷 威
	東京大学地震研究所	教授	佐藤 比呂志
	防災科学技術研究所		関口 渉次
	東京大学地震研究所	教授	平田 直
	防災科学技術研究所		堀内 茂木
顧問	東北大学	名誉教授	大竹 政和
	(財) 地震予知総合研究振興会会長		高木 章雄
事務局	(財) 地震予知総合研究振興会		

(敬称略)

3. 議第

- (1) 平成22年度の実施報告
- (2) 自動読み取り・震源決定システム
- (3) ひずみ集中帯における稠密地震観測および地震波速度構造

4. 委員会の状況

平成22年度実施報告として、①報告書ドラフトの概要、②GPSの設置とデータ取得状況、③震源分布等について及び④平成23年度地下構造調査計画等についての説明が行われた。その後、本地震観測網で導入した自動読み取り・震源決定システム及び国が実施している「ひずみ集中帯の重点的調査観測・研究」プロジェクトのうち「陸域における自然地震観測」で得られた成果について紹介された。

(1) 平成22年度の実施報告

平成22年度実施報告が行われた。

- ① 報告書のドラフトの概要については、事務局より説明があり、委員会で確認が行われた。
- ② GPSの設置とデータ取得状況について説明があり、委員会では、上下方向の評価精度、観測機の設置上の懸念事項について議論が行われた。
- ③ 震源分布等について説明があり、震源決定に用いる速度構造など検討条件について確認・意見交換が行われた。委員会では、今後の検討成果に期待するとの意見もあった。
- ④ 平成23年度地下構造調査計画等については、長岡平野西縁断層帯に並行する方向で実施する深部構造探査の計画、S波速度構造の推定するための微動アレイ探査の計画及び評価例が説明された。委員会では、引き続きより詳細な地下構造の解明が望まれるとの意見があった。

(2) 自動読み取り・震源決定システム

地震情報の早期伝達等には、信頼できる地震波の自動読み取り、自動震源決定法の開発が不可欠である。今回整備した観測網に適用するために開発・導入した自動処理システムについて説明があり、委員会では、その処理方法に関する議論が行われた。

(3) ひずみ集中帯における稠密地震観測および地震波速度構造

国によるプロジェクトのうち「陸域における自然地震観測」で行われた地震観測の内容及びその観測データを用いたトモグラフィー解析から得られた地震波速度構造について説明があった。委員会では、対象地域における地震の発生メカニズム等の解釈について議論があったうえで、ブーゲー異常などの他のデータも併せて総合的に検討してより良い速度構造モデルを作りたいとの意見があった。

以上